

幼児期に育てたい10の力

～幼稚園生活で育まれる学びとは～

山口県認定こども園岩国東幼稚園 文学博士 教頭 富津田 香



今、幼児教育の重要性が注目されています。

ノーベル経済学賞

シカゴ大学教授

ジェームズ・J・ヘックマンの研究

『幼児教育の経済学』

5歳までの教育が、人の一生を左右する

「ペリー就学前プロジェクト」「アベセダリアンプロジェクト」

○調査実権の内容

恵まれない家庭の子どもたちを対象に、2つのグループに分けた。

A 質の高い幼児教育を受けたグループ

B 幼児教育を受けないグループ

幼少期～成人するまでの40年間追跡調査を行うことで、幼少期の環境の重要性を実証した。

1. 幼児期に質の高い教育を受けたAグループの子どもは、その後の人生に大きな影響を与えることが明らかになった。

学業や働きぶりや社会的行動に肯定的な結果をもたらし、効果はずっと後まで継続した。

たとえば、学力検査の成績がよく、学歴が高く、収入が多く、持ち家率が高く、生活保護受給率や逮捕率が低かった。

「就学前で重要なのは、IQに代表される認知能力だけでなく、忍耐力、協調性、計画力といった非認知能力も重要」であることも同様に証明された

「非認知能力」は、「認知能力」に対比される言葉

「認知できる能力」とは、数値化できる能力「IQ(知能指数)」を指す。

「非認知能力」とは、数値で測ることのできない「内面的な能力」のこと

- 例えば、「やる気」、「最後までやり抜く気概」、「リーダーシップの力」、「協調性」など

「IQ」と対比される言葉として「EQ」をよく耳にしませんでしたか？

「EQ」とは「心の知能指数」のことで、具体的には自己認識、感情の自己抑制、共感力、意欲など

他にも

- SQ (Social Quotient) 社会的知能、精神的知能 人とのかかわり
 - AQ (Adversity Quotient) 逆境指数 困難に立ち向かう力 ピンチをチャンスにする力
 - MQ (Moral Quotient) 道徳性知能 感謝、謙虚さ 良いことと悪いことの分別など
 - CQ (Creative Quotient) 創造性知能 ものを創り出す力 発想力
- EQを始めとした上記すべてが「非認知能力」と呼ばれる能力

幼稚園教育において育みたい資質・能力が明確になりました

幼児期に育みたい10の力

1. 健康な心と体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活との関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚
9. 言葉による伝え合い「豊かな感性と表現」

健康な心と体	生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わる中で、しなければならないことを自覚し、考えたり工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感を持ってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達とさまざまな体験を重ねる中で、して良いことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にする気持ちを持つとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人とのさまざまな関わり方に気付き、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみを持つようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予測したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、好奇心や探究心を持って考えながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、これらを活用して興味や関心、感覚を持つようになる。
言葉による伝え合い	保育士や友達などと心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ、感性を働かせる中で、さまざまな素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを表現する喜びを味わい、意欲を持つようになる。

2020年に大学入試センター試験が変わる4つの理由

・「覚える」から「考える」大学入試へ

1. 情報化がますます進展する社会で、情報を分析して考え、新しい施策を考え出す力
2. 急速に変化する世の中で、言われたことをそのまま実行するだけでなく、自分の頭で考える力を養うことで、刻々と移り変わる世の中の状況に適応していく能力
3. グローバル化や多文化共生社会の中で、的確にコミュニケーションを図る能力
4. 人口減少社会や少子高齢社会の急速な進展に伴い、限られた人口であっても、新しいアイデアを発想したり、生産性を高める施策を実行したりできるような人材が必要

幼稚園における教師の役割

どこまでも伸びようとする芽をどの子どもももっている、どこまでも伸びたいと切に願う芽がどの子にもある。しかし、この無限の可能性を秘めた子どもの芽は、ほおっておいたら、双葉すら広げることができないかもしれない。たとえ、双葉を広げることができたとしても、大切にされなければ、じき、しおれてしまうだろう。

では、子どもの芽はどんなときにのびるのか……。

それは、「**確かな保育者の眼**」に出会ったときである。そのとき、はじめて、子どもの芽は強く、たくましく伸び、美しい花を咲かせるのである。なぜなら、子どもは自分が気になるもの、魅かれるものと出会ったときに、全力で関わろうとする存在だからである……。

日々のエピソードから 10の力を考える

人とのかかわり

思いやり(人間関係)

自分の席から離れて遊ぶことに、まだ不安いっぱい
のSちゃ(年々少組)。

すると、Rちゃんの方が傍
に寄り添って一緒に遊ぶ
ようになりました。

普段の関りからお友達へ
の思いが少しずつ育って
います。



子ども達のお給食が終わり、お昼からのままごと遊びに夢中。

もちろん今の時期は保育者は子どもと一緒に昼食をとる時間ありません

「先生も、おなかすいちゃった」と思わずの本音に、何やら作り始めたSちゃんとAくん。

このあと、私のところに、「たべて」とたくさんのごちそうを作ってもってきてくれました。

何気ない保育者の言葉にも、優しい気持ちで答えてくれる2歳の子ども達。思わず心がいっぱいになりました。



相手を気遣ったり、共感してあげようとしたり、家庭での基盤のもと、人として必要な思いやりの心を園生活でもしっかりと育まれています。

協同的活動(友達と協力しながら
遊びを進める力)
役割分担(自分たちで役割を分担
し、円滑に遊びを発展させる力)
自分たちの生活を創り出す力

自然広場では、春の草花が子ども達を
明るく迎えてくれています。

シロツメクサ、クローバーをはじめ、一
番人気はピーピー豆。その中にある豆
をとりだし、集める事。

広場の中央に置かれた、ベンチは早く
も、ピーピー豆製造工場になっていま
した。ピーピー豆を収穫する人。集め
た豆を剥く人、中身を集めて容器に詰
める人、工場さながらに役割分担を決
めて職人のような仕事ぶりを発揮して
いました。

子どもは、自ら環境に働きかけ、自分
たちの遊びを豊かに創り出す力を持っ
ています。



サラ粉づくり、自分が納得するものを、納得のいくまでやり続ける力(集中力・思考力・根気強さ・環境に働きかける力)

子どもは日々の生活で、様々な素材とかかわりながら、「こんなあそびがしたいな」、「こんなものを作りたいな」という思いや期待をもって遊び始めます。

夢中になってする遊びには、それ自体たくさんの学びの芽が育まれている証。

好きな遊びを通して、後の学びに必要な集中力や思考力・繰り返し挑む粘り強さを獲得します。

土・砂、水、石、草花、生き物など身近なものの性質を五感で理解しながら、それらの性質を生かした新たな遊びをどんどん展開させていきます。

自発性を伴うこうした遊びは、生涯において剥落しない、知識やスキルの基礎をうとともに、生きる上で大切な非認知能力を育みます。



公共性・規範意識・ルールの大切さ

お片づけをする、順番を待つ、ものを大切に使う

園の生活には、こうした集団生活に必要なルールやお約束がいくつもあります。

砂遊びで使ったおもちゃは、みんなできれいに洗って片付ける。手洗い場では、順番を守って自分の番を待つ。毎日の積み重ねで、どんな子どもでもルールを守るようになっていきます。



社会生活とのかかわり

部屋を移動する時は、並んで移動する。
途中出会う事務所の先生や給食の先生
にご挨拶をします。

集団社会生活の基礎を、幼稚園生活
のなかで、わかりやすく伝え、ご挨拶の
大切さを自然と身に着けられるようにし
ています。



自立心 挑む力 諦めない力 達成感

自分の目的や目当てに向かって
何度でも挑戦する諦めない力

始めはできなかった鉄棒も友達と
毎日触れているうちに、次第とコ
ツをつかみ、今後はそれが楽しく
てしょうがなくなり、一日の始まり
はいつも鉄棒の連続回りになりました。

こうして得た自己有能感は、やっ
たらできるんだという自信と、生涯
何かに向かう時の原動力の基礎
となります。



思考力・判断力・問題解決能力

ほしくみ 的あてゲーム



ほし組さんで、星まつりを開催しました。他の学年を招待しての的あてゲームでは年少さんは、なかなか当てることができません。そこで考えたのが距離を調整する知恵でした。(年長さんは青い線・年中さんは黄色の線 年少さんは赤い線。)自分たちで考えて問題解決する力。 知恵を出し合い、協力して乗り越える力

基本的生活習慣の習得

園内研修から

正しい姿勢とは？

きちんとするってどういうこと？

無意識を気づかせ、意識化することの大切さ

身近な大人は、一番の子どものお手本（モデル）

新しい価値に気づかせたり、教えていくことは保育者の役割です。

特に、1歳2歳3歳は、保育者がしっかり手をかけてあげることが大切です。



- バスに乗る子供は、バスの先生に大きな声で名前を告げてから、順番にバスに乗るようにしています。
- 乗ったら速やかにバスの席に座って待ちます。
- 出発の際は、バスの先生に「お願いします」到着の時は「有難うございました」のご挨拶をします。自分たちの生活を支えてくださっている身近な人への感謝の気持ちもわすれないように心掛けて指導しています



くまのプーさんの作者 A・Aミルン



イギリスの作家A.A.ミルン『6さいになった』

1つに なった時 ぼくは 何もかもが 初めてだった。

2つに なった時 ぼくは まるっきり 新米だった。

3つに なった時 ぼくは ようやく ぼくになる。

4つに なった時 ぼくは 大きくなりたかった。

5つに なった時 ぼくは 何からなにまで 面白かった。

6つに なった時 ぼくは ありったけ おりこうです。

だから ぼくは いつまでも 6つで いたいと 思います。